

<h2>麻しん（はしか）について</h2> <h3>～正しく知ることが最大の予防策です～</h3>
---

国立感染症研究所感染症疫学センター作成：学校における麻しん対策ガイドライン（第二版）より

### 麻しん（はしか）とは

- 麻しんは感染力が強く、空気中を漂うウイルス粒子を吸い込む「空気感染」、麻しん患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことによる「飛沫感染」、ウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」により感染します。
- 麻しんに対する免疫がない、あるいは免疫が不十分な人が、麻しん患者と同じ空間の同じ時間帯にいた場合や接触した場合は、麻しんを発症する可能性が非常に高くなります。
  - ※ 免疫があると、体内に入ってきた麻しんウイルスの増殖を抑え、発症を防いでくれます。
  - ※ 麻しんウイルスは、空気中に出てくると、その生存期間は2時間以下とされています。

### 麻しん（はしか）の予防方法

- 麻しんの予防で最も効果的なのは、予防接種（ワクチン接種）です。
- 予防接種を1回することで95%以上の人が免疫を獲得することができ、予防接種を2回受けることによりほぼ100%の免疫を獲得する（注1）ことができますとされています。
  - 注1 2回接種していても発症することはあります。しかし、接種歴のある人の麻しんは症状が軽いことが多く、感染力も未接種未り患の麻しん患者より弱いことが確認されています。
- 平成2年4月2日以降の生まれの方は、過去に2回、麻しんの予防接種を公費で受けられる機会（注2）がありました。
  - 注2 予防接種法による定期接種の機会  
母子手帳などで、予防接種を2回受けているか確認してください。  
予防接種を2回受けていない、または接種したかが不明の場合は、予防接種を受けることをお勧めします。接種については、かかりつけ医に相談してください。
- ※ 麻しんにり患したことがある場合は、麻しんに対する免疫があるものと考えますが、り患したかどうか不確かな場合は、抗体検査や予防接種を受けることをお勧めします。その際はかかりつけ医に相談してください。

### 麻しん（はしか）の症状

- 潜伏期間（感染後症状が出るまでの期間）は、概ね10日から12日程度です。
- 初期症状は、発熱、咳、鼻水など風邪と同様の症状が出ます。その後一旦解熱したのち、再び高熱が出るのと同時に全身に発しんが出現し、4～5日高熱が続きます。
- 合併症がないかぎり7～10日程で回復します。

### 麻しん（はしか）の感染期間 ※ 人に感染させる可能性のある期間

- 発熱の出現前日から、解熱後3日を経過するまでです。  
感染力が最も強いのは、発しん出現前の数日間とされています。

### 麻しん（はしか）の発症が疑われるときは

- 麻しんの発症が疑われる場合は、学校を休み、医療機関に受診してください。
- 受診の際には、事前に医療機関に連絡し、感染の疑いがあることを伝え、受診の方法について確認してください。
- 医療機関から、麻しんと診断（疑い含む）された場合は、速やかに学校に連絡してください。